



家政條規

家政條規

上杉家

早稲田大学図書館  
文書27  
M 68  
3



# 家政條規

## 第一章 葬祭社寺

- 第一條 埋葬所ハ米澤御廟町所有墓地東京白金興禪寺墓地トス
- 第二條 寶塔ノ構造ハ祖宗ノ制度ニ踰越スヘカラス
- 第三條 年祭ハ其墳墓ノ在ル所ニ於テ之ヲ行フ
- 第四條 祖宗及先考先妣ノ年祭ハ家主自ラ之ヲ行フ
- 第五條 武尊公鷹山公ノ尊靈ハ上杉神社例祭ノ當日家庭ニ於テ家主自ラ之ヲ祭ル
- 第六條 毎年八月祖先憲政公以前ノ尊靈ヲ法音寺ニ長尾家累代ノ靈魂ヲ林泉寺ニ於テ合祭ス
- 第七條 毎年上杉神社ノ例祭ニハ榊料金貳拾五圓神酒參斗鹽麩貳尾ヲ獻備ス



第八條 正統尊靈神式ノ年祭ニハ柳料金七拾五錢ヲ献備シ祭菜料金拾五圓ヲ其神官ニ回付ス

第九條 正統尊靈佛式ノ年祭ニハ香料金七拾五錢ヲ献備シ祭菜料金七圓ヲ其寺院ニ回付ス

閏系尊靈ノ年祭ニハ香料金五拾錢ヲ献備シ祭菜料ハ正統ノ半額トス

第十條 祖先憲政公以前ノ合祭ニハ香料及祭菜料ハ正統ノ例ニ依リ長尾家累代ノ合祭ニハ閏系ノ例ニ依ル

第十一條 同年中數尊靈ノ年祭ニ相當スルトキハ之ヲ合祭シ香料及祭菜料ヲ増加スルコトナシ但シ正統ノ尊靈ト閏系ノ尊靈トヲ合祭スルトキハ其香料及祭菜料ハ正統ノ例ニ依ル

第十二條 同年中神式ト佛式トノ年祭ニ相當シ又ハ各地尊靈ノ

年祭ニ相當スルトキハ各個ニ祭式ヲ行フ

第十三條 高野山ニ分葬スル各尊靈ハ家主一代一度其地ニ詣リ合祭ヲ行ヒ香料金貳圓五拾錢ヲ献備シ祭菜料金五拾圓ヲ清淨心院ニ回付ス

第十四條 毎年社寺ヘ回付スヘキ供米仕向金ハ左表ノ如シ

社	寺	年	始	供	米	仕	向	金
上杉神社	五拾錢			貳拾俵	百五拾圓			
法音寺	五拾錢			拾俵	七拾圓			
興禪寺	五拾錢			拾俵	七拾圓			
林泉寺	五拾錢			拾俵	五拾圓			
清淨心院				壹俵	參圓			
妙心寺				壹俵	參圓			



傳	法	本	上	東	極
通	泉	門	善	北	樂
院	寺	寺	寺	寺	寺
	參				參
	拾				拾
	錢				錢
壹	壹	壹	壹	壹	貳
	俵			俵	俵
俵	半	俵	俵	半	半
	五				五
					圓
	圓				圓

第十五條 前條ノ供米ハ壹俵代金ヲ參圓ト定メ米價ノ昂低ニ因リ變更スルコトナシ

供米代金及仕向金ハ毎年六月十二月之ヲ回付ス但シ供米代金又ハ仕向金ノ一方ニ止マルモノハ歳首ニ之ヲ回付スヘシ

第十六條 法音寺興禪寺林泉寺靈屋ノ修繕ハ都テ當家ノ負擔トス

法音寺本堂倉庫庫裡ノ木羽葺本堂ノ雪圍雪卸休息所ノ疊替興禪寺本堂休息所ノ修繕疊替及林泉寺本堂屋根洩差休息所ノ疊替モ亦前項ニ同シ

第二章 後見人後見監督人家政攝理人

第十七條 後見人ハ家範及家政條規ニ基キ定款ヲ設ケ家令家扶ニ委任執行セシメ之カ監督ヲ爲スニ止ムルコトヲ得其定款ハ家政相談會ニ諮問シテ之ヲ定ム

第十八條 後見人ハ其任務ニ就キタル後一ヶ月内ニ後見監督人家政相談人二名以上及家令家扶ノ立會ヲ以テ被後見者ノ財産ヲ帳簿ニ照シテ調査シ立會人連署ノ確認證書ヲ親屬會ニ提出スヘシ

第十九條 後見人ハ財産管理上止ムヲ得ナル場合ニ於テハ家政



相談會ノ審議ヲ經テ從來繼續ノ事業ヲ減縮若クハ解廢スルコトヲ得ルモ新ニ事業ヲ創設スルコトヲ得ス

第二十條 後見人ハ被後見者及家族幼者ノ教育方針ヲ選定變更スルトキハ親族會及家政相談會ニ諮問シテ之ヲ爲スヘシ

第二十一條 後見人ハ財産ノ利用方法ヲ變更セントスルトキハ家政相談會ニ諮問スヘシ

第二十二條 後見人ハ毎年經費ノ豫算各種財産ノ増減變更及收支決算ヲ家政相談會ニ付シ其審議ヲ經タル後之ヲ親族會ニ報告スヘシ

第二十三條 後見人ハ其任務中及任務解了ノ後未タ財産引渡ヲ終ラサル間ニ於テ自己若クハ他人ノ名ヲ以テ被後見者ノ權利及財産ヲ讓受又ハ借受ルコトヲ得ス但シ親族會及家政相談會

ノ承認ヲ經タルトキハ此限ニ在ラス

第二十四條 後見人ノ任務解了スルトキハ就任ノ時ト同様ノ手續ヲ以テ後任者又ハ家主ニ管理スル財産ヲ引渡スヘシ

第二十五條 前條ノ引渡ヲ終リタルトキハ立會人及後任者若クハ家主連署ヲ以テ之ヲ親族會ニ報告スヘシ

第二十六條 後見人ハ家範及家政條規ニ乖戾シ又ハ故意ノ所爲ニ因リ損害ヲ致シタルトキハ其責ニ任ス

第二十七條 後見監督人ハ後見人ノ任務上ニ付意見アレハ何時ニテモ家令家扶ニ通告シテ親族會又ハ家政相談會ヲ開クコトヲ求ムルヲ得

第二十八條 後見監督人ハ後見ノ開始及終了ノ際財産ノ調査ニ立會ヲ爲シ後見人ヨリ親族會ニ提出スル確認證書及引渡終了



報告書ニ連署スヘシ

第二十九條 後見監督人ハ毎年度ノ豫算決算各種財産ノ増減變更ヲ檢閲スヘシ

第三十條 後見監督人ハ家令家扶ノ立會ヲ以テ何時ニテモ什寶金穀及諸帳簿ヲ檢閲スルコトヲ得

第三十一條 後見監督人更迭アルトキハ後任者ノ選定ヲ待テ其任務ヲ引渡スヘシ若シ其任務當然ニ終了スルトキハ其任務ノ結果ヲ家主ニ報告スヘシ

第三十二條 家政攝理人ノ任務ニ關シテハ後見人ノ規程ヲ準用ス但シ成年ノ嗣子ニシテ家政攝理人タルトキハ第十八條第二十四條ノ手續ヲ爲スヲ要セス

### 第三章 親族會員家政相談人

第三十三條 親族會員ハ三名以上五名以下トス

第三十四條 親族會員ハ家主及家族ノ身上ニ關シ不當ノ行爲ヲ認ムルトキハ親族會ニ於テ審議シ訓誡ヲ加ヘ反正セシムルノ道ヲ盡スヘシ但シ家族ノ身上ニ關シテハ家主ニ陳告スルモノトス

第三十五條 親族會員ハ後見人又ハ家政攝理人ノ不當ノ行爲ヲ認ムルトキハ親族會ニ於テ審議シ家政相談會ノ同意ヲ得テ之ヲ改選ヲ行フヘシ

第三十六條 親族會員ハ家令家扶家從ノ不當ノ行爲ヲ認ムルトキハ親族會ニ於テ審議シ家主ニ陳告スヘシ

第三十七條 家政相談人ハ米澤東京各三名以上五名以下トス

第三十八條 家政相談人ハ毎月一回集會スルモノトス



第三十九條 家政相談人ハ後見人又ハ家政攝理人ノ不當ノ行爲ヲ認ムルトキハ家令家扶ニ通報シテ家政相談會ヲ開キ審議ノ結果ヲ親族會ニ報告スヘシ

第四十條 家政相談人ハ家令家扶家從ノ不當ノ行爲ヲ認ムルトキハ家主ニ具狀シテ相談會ヲ開キ審議ノ結果ヲ陳告スヘシ

第四十一條 親族會員及家政相談人ハ各三名以上ノ請求ニ因リ家主ノ承諾ヲ受ケ家令家扶ノ立會ヲ以テ何時ニテモ什寶及諸帳簿ヲ檢閲スルコトヲ得

#### 第四章 親族會家政相談會

第四十二條 親族會長ハ親族會員ノ互選トシ家政相談會長ハ家政相談會員中ノ年長者トス

第四十三條 凡ソ議事ハ豫メ議按ヲ會員ニ回付シ然ル後開會ス

ルモノトス但シ緊急ヲ要スル場合ハ此限ニ在ラス

第四十四條 親族會及家政相談會ノ議事ハ協議ヲ以テ之ヲ決ス若シ協議調ハサルトキハ出席員ノ多數決ニ依ル可否同數ナルトキハ會長之ヲ決ス

第四十五條 家政相談會ノ議事ハ其事ノ起リタル甲地ニ於テ審議シ其決議書ニ理由ヲ付シ乙地相談會ニ回送スヘシ但シ決議書ニハ少數者ノ意見ヲ添付スルモノトス

家範第二十五條第五ハ金高三千圓以下第六第七ハ各金高三百圓以下及事ノ輕キ者ハ其事ノ起リタル地ノ相談會ノ審議ニ止ムルコトヲ得

第四十六條 乙地ノ意見甲地ノ意見ト相協ハサルトキハ其理由ヲ書シテ更ニ甲地ノ再議ニ付スヘシ



第四十七條 甲地再議ノ上尙ホ乙地ノ意見ト相協ハサルトキハ  
又其理由ヲ書シテ乙地ノ再議ニ付スヘシ

第四十八條 甲乙兩地再議ヲ經ルモ尙ホ其意見相協ハサルトキ  
ハ家主之ヲ決ス

前項ノ場合ニ於テハ家主ノ意見ニ由リ兩地合議會ヲ開クコト  
アルヘシ

第四十九條 親族會ニ關スル事件ニシテ兩地家政相談會ノ意見  
相協ハサルトキハ兩地ノ決議書ヲ其儘親族會ニ提出シ親族會  
賛同ノ多數ニ依リ家主之ヲ決ス

第五十條 親族會ノ意見家政相談會ノ意見ト相協ハサルトキハ  
兩會ノ交渉會ヲ開クヘシ尙ホ其意見相協ハサルトキハ家主之  
ヲ決ス但シ交渉會長ハ親族會長ヲ以テ之ニ充ツ

第五十一條 相續若クハ後見人又ハ家政攝理人ニ關スル事件ハ  
家範第二十二條第二十五條及前二條ノ手續ヲ經テ親族會長之  
ヲ決ス

第五十二條 自己ノ利害ニ關スル議事ハ何人タリトモ其議席ニ  
列スルコトヲ得ス

第五十三條 議定ノ事件ニシテ家主意見アルトキハ再議ニ付ス  
ルコトアルヘシ

第五十四條 凡ソ議件ノ結果ハ其關係ノ各會員ニ報告スヘシ但  
シ第四十五條第二項ノ場合ニ於テ一地方ノ審議ニ止マルモノ  
ハ他ノ一方ニ報告スルモノトス

第五十五條 凡ソ決議書ハ出席員署名捺印シ結了ノ後決定ノ要  
領ヲ記載シテ家主之ニ捺印スルモノトス



前項ノ決議書ハ之ヲ蒐輯シテ保存スヘシ

第五章 家令家扶家從附雇人

第五十六條 家令家扶家從ノ定員ハ左ノ如シ

一 家令 一人

二 家扶 二人

三 家從 四人以下

但シ時宜ニ因リ家令家扶ノ内一人ヲ置キ又ハ家扶二人ノ内一人ヲ置クコトヲ得

雇使ノ男女ハ定員ヲ設ケス時宜ニ因リ増減ス

第五十七條 家令家扶ハ家範ノ定ムル所ニ依リ囑託解除ス

第五十八條 家從ハ家令家扶ノ具申ニ依リ囑託解除ス

雇使ノ男女ハ家令家扶ノ具申ニ依リ採用又ハ解除ヲ命ス

第五十九條 家令家扶ハ家範第三十六條ニ依リ經費豫算ハ十一月十五日限り決算ハ翌年一月二十日限り各種財産ノ増減變更

及收支決算ハ翌年二月限り具申スヘシ

第六十條 家令家扶其任務ヲ後任者ニ授受スルトキハ其管掌スル所ノ各種財産及寶物ヲ簿册ト共ニ引渡シ前任者後任者連署ヲ以テ引渡終了ノ旨ヲ具申スヘシ

第六十一條 家令家扶ハ事ノ必要ニ因リ何時ニテモ親族會又ハ家政相談會ノ開會ヲ請求スルコトヲ得

第六十二條 家令家扶職務ニ對シ不正ノ行爲アルカ若クハ家範ニ違背シタル行爲アルカ又ハ自己ノ體面ヲ辱メタル行爲アルトキハ家政相談會ノ審議ヲ經テ之ヲ解除ス

第六十三條 家從ニシテ前條ノ行爲アルトキハ家令家扶ノ具申



ニ因リ之ヲ解除ス但シ事情疑ハシキモノハ家政相談會ニ諮問  
シテ審議セシムルモノトス

第六十四條 家令家扶家從禁錮以上ノ處刑又ハ家資分散ノ宣告  
ヲ受ケタルトキハ家政相談會ノ審議ヲ經ス直ニ之ヲ解除ス

第六章 俸給

第六十五條 家令以下ノ俸給ハ左表ニ依リ之ヲ給ス

役名	家令	家扶	家從	雇
月俸	參拾圓	貳拾五圓	拾圓以上 拾八圓以下	拾圓以下

第六十六條 俸給ハ毎月二十六日ニ之ヲ給ス

第六十七條 俸給ヲ受ル者私ノ事故ニ因リ缺勤三十日ヲ超ユル  
トキハ俸給ノ半額ヲ減ス

第六十八條 就職解職増俸減俸ノ月ハ日割ヲ以テ之ヲ給ス

第六十九條 解職後事務引繼ヲ終ル迄ハ在職ノ俸給ヲ給ス

第七十條 在職中死亡シタルトキハ其月ノ俸給全額ヲ給ス

第七章 手當

第七十一條 家令家扶家從役女女中ニ東京定府又ハ米澤常住ヲ  
命シタルトキハ家令家扶ニ金百五拾圓家從ニ金百圓役女女中  
ニ金參拾圓ノ手當ヲ給ス

第七十二條 家從役女女中ニ東京交代勤ヲ命シタルトキハ金六  
圓ノ手當ヲ給ス

第七十三條 家令家扶家從東京定府又ハ家從東京交代勤中ハ其  
月俸同額ノ手當ヲ給ス

第七十四條 家令家扶家從東京定府中ハ屋舎ヲ給ス

第七十五條 東京定府又ハ米澤常住ヲ命シタル家令家扶家從役



女女中當家ノ都合ヲ以テ解職若クハ定府常住ヲ解キ歸郷又ハ他府縣ニ轉住スルトキハ家令家扶ニ金百圓家從ニ金七拾圓役女女中ニ金拾圓ノ手當ヲ給ス  
老衰病氣婚嫁養親等止ムヲ得サル事故ニ因リ自ラ其職ヲ辭スル者モ亦前項ニ同シ

第七十六條 東京居住者ニ家令家扶家從ヲ命シ本邸ニ居住セシムルトキハ家令家扶ニ金參拾圓家從ニ金貳拾圓ノ手當ヲ給ス其本邸居住ヲ解キタルトキモ亦同シ

第七十七條 東京定府米澤常住又ハ東京本邸居住勤ノ者死亡シタルトキハ前二條ノ例ニ依リ其手當ヲ遺族ニ給ス

第七十八條 職務ニ對シ不正ノ行爲アルカ若クハ家範ニ違背シタル行爲アリテ解職ヲ命シタルトキハ第七十五條第七十六條

ノ手當ヲ給セス

第八章 旅費

第七十九條 家令以下當家ノ用向ヲ以テ旅行スルトキハ順路ニ依リ左表ニ照シ車馬賃日當ヲ給ス

置賜三郡内車馬賃日當表

役名	家令	家從	役女中	家以下
汽車每一哩	參	貳	貳	壹
陸路每一里	拾	八	八	五
日當	七拾	五拾	五拾	參拾
隨從日當	參拾	貳拾	拾	七

置賜三郡外車馬賃日當表

役名	家令	家從
汽車每一哩	五	五
汽船每一海里	五	五
陸路每一里	拾	貳
日當	壹圓貳拾	拾
隨從日當	五	拾



家從	參	錢
女役	參	錢
中女	參	錢
家下丁	貳	錢
家從	參	錢
女役	參	錢
中女	參	錢
家下丁	貳	錢
家從	拾	錢
女役	拾	錢
中女	拾	錢
家下丁	八	錢
家從	七	拾
女役	七	拾
中女	七	拾
家下丁	五	拾
家從	貳	拾
女役	貳	拾
中女	貳	拾
家下丁	拾	錢

第八十條 急用ヲ以テ晝夜兼行スルトキハ陸路ニ限り車馬賃ヲ表記ノ二倍トス

第八十一條 往復二里未滿ハ車馬賃日當ヲ給セス但シ宿泊ヲ要スルトキハ此限ニ在ラス

第八十二條 宿泊ヲ要セサル隨從旅行ハ日當ヲ給セス

第八十三條 家令家扶家從役女女中家主ノ代理又ハ急使若クハ往復二里以上六里未滿ノ地へ出張シ宿泊ヲ要セサルトキハ實費ノ車馬賃ヲ給シ食時ニ係ルトキハ食料金貳拾錢ヲ給ス但シ家丁以下ハ食料金拾錢ヲ給シ急使ノ外ハ車馬賃ヲ給セス

第八十四條 東京本邸ヨリ横濱所有地ニ係ル用向ヲ以テ其地ニ出張スルトキハ置賜三郡内ノ例ニ依ル

第八十五條 東京本邸ヨリ濱町所有地ニ係ル用向ヲ以テ其地ニ出張スルトキハ食料及車馬賃一回金貳拾五錢ヲ給ス

第八十六條 家政相談人當家ノ用向ヲ以テ旅行スルトキハ第七十九條ノ規程ニ依リ家令家扶ノ車馬賃ヲ給シ日當ヲ二倍トス

第八十七條 家令家扶家從役女女中休職若クハ解職トナリ歸郷又ハ他府縣ニ轉住スルトキハ在職相當ノ車馬賃日當ヲ給ス

第八十八條 家令家扶家從役女女中在職中死亡シタルトキハ在職相當ノ車馬賃日當ヲ其遺族ニ給ス

第九章 休職

第八十九條 家令家扶家從當家ノ都合其他疾病等止ムヲ得サル



ノ事故アルニ於テハ休職ヲ命スヘシ

第九十條 休職年期ハ滿三年トス期滿レハ其職ヲ解除ス

第九十一條 休職中ノ俸給ハ現俸三分ノ一トス

第九十二條 休職員ハ家主ノ許可ヲ得テ市町村吏員及學校病院

諸會社ノ業務ニ從事シ之カ役員トナルコトヲ得

第九十三條 休職員ハ當家ノ都合ニ因リ復職セシムルコトアル

ヘシ

### 第十章 慰勞金報勞米遺族扶助米

第九十四條 家令家扶家從役女退職シタルトキハ慰勞金ヲ給ス

但シ在職中死亡シタルトキハ之ヲ其遺族ニ給ス

第九十五條 慰勞金ハ在職中毎年各人ノ月俸二ヶ月分ニ當ル金

額ヲ積立元利ヲ合セテ之ヲ給ス其積立方法ハ第十三章ニ依ル

但シ休職中ノ者ハ休職俸額ニ依ル

第九十六條 家令家扶家從役女年齢六十歳ヲ超ヘ退職シタルト

キハ左ニ定ムル勤務年數ニ依リ終身報勞米ヲ給ス但シ滿二十

五年以上勤務ノ者ハ年齢ニ拘ハラサルモノトス

一 家令家扶 滿七年

二 家從役女 滿十五年

第九十七條 家從ヨリ家扶ニ進ミ家扶ヨリ家令ニ進ミタルトキ

ハ前職ノ年數ヲ通算シ現職相當ノ報勞米ヲ給ス

第九十八條 勤務年數ノ計算ハ初任ノ月ニ始まり退職ノ月ニ終

ル但シ明治四年七月廢藩以前ノ年數ハ算入セス

第九十九條 左ニ掲クルモノハ勤務年數ニ算入ス

一 退職ノ後再ヒ就職シタル者ハ前奉職中ノ年月



二 休職中ノ年月

三 女中勤務中ノ年月

第百條 報勞米ノ定額ハ左ノ如シ

一 家令 十人扶持

二 家扶 七人扶持

三 家從 五人扶持

四 役女 二人扶持

但シ一人扶持ハ一ヶ月玄米一斗五升トス

第百一條 報勞米ノ支給ハ退職ノ翌月ニ始リ死亡ノ月ニ終ル

第百二條 報勞米ハ六月十二月ニ之ヲ給ス但シ給米ハ六月十五

日十二月十五日米澤市街平均相場ノ穀代金ヲ以テ給スルモノ

トス

第百三條 第九十六條ノ報勞米ヲ受クヘキ年數ヲ超ヘタルトキ

ハ滿一年毎ニ各一人扶持ニ付三升ヲ加フ

第百四條 第九十六條ノ報勞米ヲ受ケ又ハ受クヘキ在職ノ者ニ

シテ死亡シタルトキハ左ニ定ムル扶助米ヲ其遺族ニ給ス

一 家令 三人扶持

二 家扶 二人扶持

三 家從 一人扶持

第百五條 遺族扶助米ヲ給スル順序ハ左ノ如シ

一 寡婦

二 未成年ノ孤兒

三 父母

四 祖父母



第百六條 家令家扶家從役女當家ノ爲メニ傷痕若クハ疾病ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ又ハ之ニ準スヘキ者ニシテ退職ヲ許シタルトキハ年齢及勤務年數ニ拘ハラス終身現職相當ノ報勞米ヲ給ス但シ報勞米ヲ受クヘキ者ニシテ本條ノ場合ニ方リタルトキハ現職相當ノ報勞米ニ一人扶持以上三人扶持以下ヲ増給スルコトヲ得

第百七條 家令家扶家從當家ノ爲メニ死ヲ致シタルトキハ年齢及勤務年數ニ拘ハラス第百條ニ定メタル報勞米ヲ第百五條ノ順序ニ依リ扶助米トシテ其遺族ニ給ス

第百八條 役女ニシテ前條ノ場合ニ方リ其他ノ雇人ニシテ前二條ノ場合ニ方リタルトキハ家政相談會ノ審議ニ付シ一時金ヲ給ス

第百九條 報勞米又ハ遺族扶助米ヲ給スルトキハ家主ノ記名調印シタル證書ヲ付與ス

第百十條 職務ニ對シ不正ノ行爲アルカ若クハ家範ニ違背シタル行爲アルカ又ハ破廉耻ノ行爲アリテ處刑セラレ爲メニ解職ヲ命シタルトキハ慰勞金及報勞米ヲ給セス

第百十一條 報勞米ヲ受ケタル後破廉耻ノ所爲アリテ處刑セラレタルトキハ其支給ヲ廢止ス但シ遺族扶助米ヲ受ケタル者本條ノ場合ニ方リタルトキモ亦同シ

第百十二條 報勞米及遺族扶助米證書ハ賣買讓與質入書入スルコトヲ許サス

#### 第十一章 祭糶料

第百十三條 家令以下死亡シタルトキハ左表ニ依リ祭糶料ヲ付



與ス

役名	家令	家扶	家役	家從女	雇
金額	參拾圓	貳拾五圓	拾五圓	拾圓	以下

第百十四條 家令以下父母妻嗣子死亡シタルトキハ左表ニ依リ弔慰料ヲ付與ス

役名	家令	家扶	家役	家從女	雇
金額	五圓	參圓五拾錢	貳圓五拾錢	貳圓	以下

第百十五條 家令以下家族及實家ノ父母死亡シタルトキハ前條定ムル所ノ半額ヲ付與ス

第百十六條 家令家扶家從役女解職ノ後死亡シタルトキハ左表ニ依リ祭筵料ヲ付與ス

元役名	家令	家扶	家役	家從女
金額	貳拾圓	拾五圓	拾圓	圓

第百十七條 家政相談人ハ家令ニ準ス但シ解任者ハ前條ノ例ニ依ル

第百十八條 職務ニ對シ不正ノ行爲アルカ若クハ家範ニ違背シタル行爲アルカ又ハ破廉耻ノ所爲アリテ處刑セラレ爲メニ解職ヲ命シタル者ニハ祭筵料ヲ付與セス

第十二章 基本財産準備金

第百十九條 基本財産第一類ヲ分テ甲乙二種トス

第百二十條 甲種基本財産ノ收益ヲ第一準備金トシ乙種基本財産ノ收益ヲ第二準備金トス

第百二十一條 第一準備金ハ經費金ノ不足ヲ補充シ尙ホ足ラサ



ルトキハ甲種基本財産ヲ支出スルコトヲ得但シ第二百二十二條ノ場合ハ本條ノ限ニ在ラス

第二百二十二條 第二準備金ハ左ノ場合ニ於テ支出シ尙ホ足ラサルトキハ乙種基本財産ヲ支出スルコトヲ得

一 縁組分家分産

二 喪事

三 邸宅購入新築

四 外國在勤留學

五 國難

六 一時ニ參千圓以上ヲ要スル臨時支出

第二百二十三條 前二條ノ支出ハ家政相談會ノ審議ヲ經テ其額ヲ定ム

第二百二十四條 第一準備金第二準備金ノ餘贏ハ年末ニ至リ各其元資ニ編入ス

第二百五條 家範第五章第二十五條第五第六ノ事件ハ家政相談會ノ審議ヲ經テ條件ヲ付シ家令家扶又ハ家政相談人ノ中一名若クハ二名以上ニ委任スルコトヲ得

### 第十三章 積金

第二百二十六條 出生ノ子アルトキハ其都度積金ヲ爲シ成長ノ後縁組分家分産ノ時ノ費途ニ充ツ但シ嫡長子孫ハ本條ノ限ニ在ラス

第二百二十七條 前條ノ積金ハ出生ノ年ヨリ毎年末一人ニ付金貳百圓ツ、ヲ第二準備金ヨリ支出シ滿十五年ニ至テ止ム

第二百二十八條 第十章第九十五條ノ積立金ハ毎年末ニ經費金ヨ



リ支出ス但シ勤務一年未滿ノ端數ハ月割ヲ以テ計算スルモノトス

第二百二十九條 積金ハ都テ國債券ニ換ヘ利子ハ其元資ニ積算ス  
第三百十條 毎年末ニ積金ノ元利ヲ計算シ各個ノ配當額ヲ定ム  
第三百十一條 第二百二十七條ノ積立年限ヲ經過スルモ第二百二十九條ノ例ニ依リ利子ヲ元資ニ積算シ滿二十年ニ至テ止ム但シ滿期後ノ利子ハ乙種基本財産ニ編入ス

第三百十二條 積金ヲ受クヘキ家族ニシテ死亡シタルトキハ其配當額ヲ乙種基本財産ニ編入ス

第三百十三條 家令家扶家從役女ニシテ第一百十條ニ當リタル者アルトキハ其配當額ヲ甲種基本財産ニ編入ス

附則

第三百十四條 家範創設ニ關シタル會議員ハ家政相談人ヲ囑託スルモノトス但シ第三章第三十七條ノ定員ニ超ユルモ妨ケナシ

第三百十五條 元商合資會社資本金ハ該會社解散ノトキニ至レハ甲種基本財産ニ編入スルモノトス

第三百十六條 第十三章第二百二十九條ノ國債券ニ換フル積金ハ當分ノ内元商合資會社ニ預ケ置クヘシ

第三百十七條 家範實施前ニ出生ノ子ハ家範實施ノ日ヨリ第十三章ヲ適用ス但シ家範實施ノ年ヲ以テ積立ノ初年トス







